

国際交流基金助成事業報告書

1 年次生 18123 高 絢一果

はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け 2019 年 3 月 4 日から 3 月 18 日までの 2 週間、薬学語学研修のためオーストラリアのキングスクリフを訪問したのでここに報告致します。今回私が参加しようと思った理由はふたつあり、1 つ目は小学校の修学旅行でオーストラリアを訪れた際、幼いながらも文化の違いや食生活の違いに驚かされたので、大学生となって色々学んだ目でもう一度見つめ理解したいと思ったからです。2 つ目はオーストラリアの薬剤師事情を知りたいという理由です。私は将来、海外、特にオーストラリアで薬剤師の職につきたいと考えており、そのためにも今回の研修に参加したいと思いました。以下に、留学時の出来事を記したいと思います。

学校生活

今回私たちが学びに行くことになったのは昨年と同じく TAFE Kingscliff 校です。

TAFE は職業訓練学校のようなもので、薬学の他に料理・美容など様々な専門学部を持つ総合大学のようなところです。

授業は主に午前中に英語・午後に薬学と分かれていましたが、初日の午後は現地のライフセーバーの方からの海での安全講習でした。オーストラリアでは小さい頃だと 3 歳くらいからビーチでの泳ぎ方・遊び方を教えられるらしく、フラッグの種類や波の種類など様々なことを教えて頂きました。英語の授業では私は Liz 先生のクラスになり、ゲームなどを行いながらとても楽しく学ぶことが出来ました。授業内容としては、オーストラリアの州ごとの理解を深めるために、それぞれの歴史を記した英文を読んだり、アボリジニーという先住民の方々が生活している土地を訪れたりと言ったものでした。薬学クラスの先生は Sally 先生で、日本語を勉強されていたので難しい専門英語などは日本語を混ぜて教えて頂いたので困ることなく取り組みました。Sally 先生にはオーストラリアでの薬剤の分類や、Pharmacy の他に Pharmacy assistant、Pharmacy technician という職業の方々の業務内容などを、現地のいくつかの薬局を訪問見学することで教えて頂きました。

また、授業と授業の間のランチタイムには、TAFE の料理係の方々が私たち専用に現地のご飯やお寿司など様々なメニューを作ってくれたので、そこでもオーストラリアの文化に触れることが出来ました。

今回この報告書を書くにあたり学校生活において私がやってよかったと感じたことは、「積極的になる」ことです。オーストラリアでは日本のように先生は誰かを当てて質問するのではなく、クラス全体に問いかけてきます。なので誰かが自発的に答えなければなりません。しかし、普段学校の授業などでは挙手をしたり発言をするタイプではなかった

のでとても難しいことではありましたが頑張っただえていくうちに、段々楽しくなっけていき最終的には Liz 先生に初めに名前を覚えて頂き、最後の卒業会で褒めて頂くことが出来ました。これは私にとってはとても自信に繋がる出来事で、意欲的になる事の素晴らしさを実感出来ました。なので、今回この事業に参加させて頂いたことに本当に感謝しています。

ホームステイ先での生活

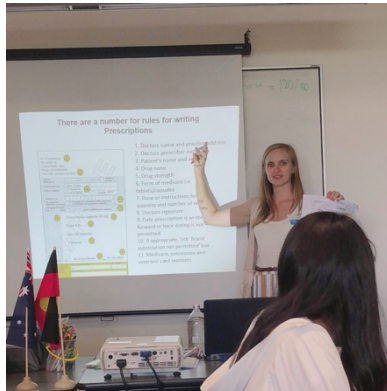
私を受け入れてくれたホストファミリーは Stephen と Anne という夫婦で、友人と1つのホームステイ先を共にするダブルステイでした。初めてのホームステイだったのでとても緊張していましたが、ダブルステイだったことでお互い助け合う事が出来たので、英語で話し打ち解けるまで時間はかかりませんでした。しかし、学校で今まで学んできたような英語とはやはり違い聞いたことの無い表現や言い回しが多々あり困惑することもありました。その時に助けて頂いたのが添乗員の宇野マキさんで、宇野さんは前回もこの事業に参加されていたこともあり多くの情報やオーストラリアの地域性を教えて頂けたので、2週間ホームステイを楽しむことが出来ました。

Stephen と Anne に限らずオーストラリア人はとても活発で、朝の5時にサイクリングに出掛けたり、サーフィンに行ったりと驚かされました。近所にダブルステイをしていた先輩方のホストファミリーとも一緒に BBQ をしたり、カンガルー肉を頂いたりオーストラリア伝統のパブロバを作ってみたりととても楽しい放課後や週末を過ごすことが出来ました。

また、Stephen と Anne には4人の子供と9人の孫が居たので、その方達ともバースデーパーティーを通じて英語を話す機会を得られたのでとても有意義なものとなりました。今でも Anne とは Instagram で連絡を取り合ったり Stephen とはチャットアプリで近況を伝えあったりする程とても大好きな2人です。

最後に

今回この留学で毎日新しいことや新しい言葉を吸収し、得ることが出来、渡航前では想像もつかない程充実した2週間を過ごすことが出来ました。私たちを見守ってくださった添乗員の宇野さんを始め事業準備などに携わって頂いた近畿ツーリストの皆様や、本学の方々、学校生活を充実させてくれた渡航メンバー、友人そしてホストファミリーにとっても感謝しています。貴重な体験させて頂き本当にありがとうございました。次頁に、オーストラリアでの資料写真を掲載したいと思います。



オーストラリアでの写真

<左上から>

現地のライフセイバー

現地の地図で見たオーストラリア

先住民族見学時の写真

<真ん中上から>

Sally クラスの薬学授業

薬局見学

先輩方のホストファミリーと

英語クラスの Liz 先生と

<右上から>

伝統ケーキのパブロ

カンガルー肉

Stephen と Anne、友人